

土原 健雄 (TSUCHIHARA Takeo)

グループ長 博士 (農学)

大阪府出身

2001 農業工学研究所 採用

2011 農林水産省 農林水産技術会議事務局

2013 農研機構 農村工学研究所

2023 農研機構 農村工学研究部門

研究推進部 研究推進室

2025 水利工学研究領域 流域管理グループ

[前回の「研究者の横顔」\(2015年3月\)](#)



地下ダムを観測孔で調査中

研究者の横顔

前回この欄に執筆させていただいたのはいつだろうか？と過去の記事を遡ると、10年も経過していました。企画管理の部署から研究に戻ったということで、10年ぶりに執筆の機会をいただきました。

【仕事について】

研究所に採用されて以来、課題や現場は変わりつつも地下水をテーマに研究に取り組んでいます。近年では、冒頭の写真にある地下ダム、地下水が多くて困る地すべり地、春先に地下水位が低下する扇状地など、多くの現場と課題を経験させていただいています。研究手法は地下水中に存在する物質（同位体、ガス、イオン等）を利用したものが主ですが、水位予測モデルの構築など慣れないシミュレーションに悪戦苦闘したりもしています。

研究以外の業務にも二度従事しました。2011～2012年度の農林水産技術会議事務局、そして直近の2023～2024年度の研究推進室での業務です。前者は外から、後者は内から農工研を見ることができました。多様な立場や意見があること、多くの関係者の皆様に支えられて自分たちの研究が成り立っていることを知れた良い機会でした。

【仕事を離れて】

コロナ禍で出張が減り、デスクワークが増えた頃からウォーキングを始めました。少しずつ距離を伸ばし、最近では100km以上のウルトラウォーキングに参加しています。車では通り過ぎて見逃してしまうような風景も、歩くとけっこう印象に残ります。また、大会中はスマホやパソコンから長時間切り離されるので、歩きながら仕事や家庭のことなどいろいろと考えたりする良い機会にもなっています。とか書くとかっこいいのですが、途中から頭の中のは大半は「足が痛い」になっています。興味のある奇特(?)な方がおられましたら、ぜひお声がけ下さい。



地すべり地の排水トンネル内の調査



扇状地の灌漑用井戸